



猿ちゃん



猿ちゃん訪問先で

山里暮らしのたいへんさは、買い物が不便なことです。高齢になると、歩いて行くのはたいへん。また山里には、店がなくなってきています。そんな過疎高齢化の著しい山里で、買い物代行サービスと便利屋の仕事を行っている方がいます。便利屋「猿ちゃん」こと、猿田光里さん(75歳)です。

猿田さんは春野町(浜松市天竜区)の山あい暮らしのお年寄りを訪ね、食品や日用品を届けています。週に6日、6つの地域を訪ねます。山道は細くて急峻なので、軽自動車のワンボックスカーです。

買い物に行けない方の玄関先まで行き、食料品や日用品を運んでそこで店を開きます。

単に販売するだけではありません。よき相談役、話し相手にもなっています。週に一度、訪ねてくる猿ちゃんを、心から待っているお年寄りが、たくさんいます。

また、見守り支援にもつながっています。倒れていた方を発見して、近親者に連絡頼んだケースが、これまで何度もありました。

猿田さんは、街中から、山間部(春野町の勝坂集落)に移住して25年。買い物に行けないお年寄りが多いことを知って、便利屋と移動販売の仕事をしよと思い立ちました。

以来、15年になります。当初と比べて、過疎高齢化は急激に進んでお客さんはずいぶん減りました。いま固定客は、120軒ほど。

「ぼくが訪ねてくることを、楽しみにしている方がたくさんいます。その方の役に立っていること、自分を待っていてくれる人がいることが、張り合いです。こうして、現役で仕事を続けられることは、ありがたいと思っています」。

※令和2年12月末に発行します「すこやか長寿88号」をご覧ください。

問合せ 080-5412-6370(池谷)

取材:浜松北部地区担当 生きがい特派員 池谷 啓